

令和6年度 長崎県立島原翔南高等学校 学校関係者評価 報告

1 評価の実施期日・場所等

日 時：令和7年1月24日（金）

場 所：南島原市西有家総合学習センター（カムス）第1会議室

2 学校関係者評価委員

永田 良二 様（学校評議員） 出席

藤田信一郎 様（学校評議員） 出席

松本 添花 様（学校評議員） 出席

本多 洋二 様（学校評議員） 欠席

3 学校関係者評価の内容

（1） 教育活動全般について

- ・地域と一体という雰囲気がとても感じられる。
- ・総合学科の長所を生かした教育が実践されていると実感している。

（2） 進路指導について

- ・進路実現100%は素晴らしいと考える。本当に進みたい道かどうかの確認も必要だと思う。
- ・人口減の島原半島に残ってくれることは本当にありがたいことだと思う。
- ・本年度、卒業生の進学・就職状況で、長崎大学や長崎県職員警察事務へ合格させた実績は讃えたい。

（3） 教育環境の整備と美化意識の高揚について

- ・美化活動の意識が高いと感じた。
- ・いつもきれいな環境に保たれていると思う。

（4） 保護者、地域等と一体となった教育活動の展開について

- ・地域の海岸清掃、フレンドリーパークの花の植栽、清掃など頑張っている。
- ・広報活動なども活発に行われており、地域とのつながりも深い。

（5） 日頃の本校生の様子（身なり、あいさつ、印象等）について

- ・全体的には落ち着きを感じられ、素直でよく挨拶をしてくれると思う。

（6） 本校に対する提言、助言

- ・鳥獣対策やサイクリングのイベントなど、「総合的な探究の時間」を中心に地元や行政機関と連携した取り組みを推奨されており、地域に密着した学校だと感じている。
- ・生徒の頑張りををもっと地域にアピールしていいと考える。自ら考え、行動できる生徒が育っていると思う。
- ・生徒数が少ないのは残念だが、現在の取組みを継続し、今以上に地域や中学生にアピールをし続けることが志願者を増やすことにつながるのではないかと思う。
- ・中学校の部活動が部員減少に伴い、崩壊しているのが現状であり、今後も部活動への参加については少ない人数でモチベーションを維持していくのは難しいと考えられる。
- ・島原半島内の小学校は積極的に統廃合が進められている。高等学校も再編整備が進められているのではないかと危惧している。